

ビーだま

ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2020年1月～12月に発行された本の中から、とくにおすすめの本を紹介しょうかいします

<編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町5番1号
電話 076-461-3200
令和3年4月23日発行（年1回発行）



ごいっしょさん

松本聰美／作 佐藤真紀子／絵 国土社



入院することになった宮本君のために、ようた洋太は〈ごいっしょさん〉というようかいを考えだします。心細いとき、いっしょにいてパワーをくれるのです。やがて元気に登校してきた宮本君は、「しゅじゅつの間、ごいっしょさんがいてくれた」と打ち明けました。

そのうち、ごいっしょさんがいるといううわさが、クラスの中で少しずつ広がっていきます。

コトノハ町はきょうもヘンテコ

昼田弥子／作 早川世詩男／絵 光村図書出版



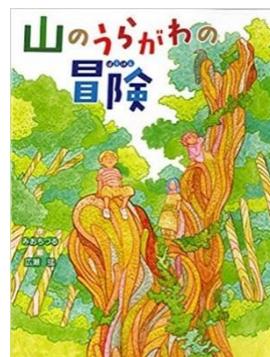
レンちゃんが住むコトノハ町は、ことばどおりのことがおきる町です。はずかしいと顔からパッと火が出るし、食べてすぐねると牛になってしまいます。ある春の日、おじいちゃんの家に行こうとしたレンちゃん。気持ちがいいので思わず川原で道草をくっていると、おしりにねっこがはえてしまいました。



山のうらがわの冒険^{ぼうけん}

みおちづる／作 広瀬弦／絵 あかね書房

夏休みをおばあちゃんの家ですごすことになった大樹^{ひろき}は、〈ヤマビトさん〉の世界にまよいこんでしまいました。原始人のようすがたで、山や川のめぐみを食べてくらすヤマビトさん。大樹はヤマビトさんに「山の神さんのゆるしがないと帰れない」と言われ、いっしょにくらしはじめます。



おひめさまになったワニ

ローラ・エイミー・シュリッツ／さく ブライアン・フロッカ／え

中野怜奈／やく 福音館書店



コーラひめは、毎日うんざりしています。りっぱなひめになるための勉強や運動にいそがしく、遊ぶひまもないからです。

そんなひめをたすけてくれたのは、いたずら好きのワニでした。ワニは、コーラひめのかわり^ずに一日お城^{しろ}ですごすと言い出します。

ぼくの犬スーザン

ニコラ・デイビス／文 千葉茂樹／訳 垂石眞子／絵 あすなる書房



いつもとちがうことがにがてなジェイクは、学校でパニックをおこしてしまいました。しかられて家出した先で出会ったのは、迷い犬。スーザンと名付けた犬とすごすうち、にがてなことも少しずつできるようになります。ところが、ある日、スーザンの飼い主だという人があらわれました。



神様のパッチワーク

山本悦子／作 佐藤真紀子／絵 ポプラ社

特別養子縁組で、お父さんとお母さんの子どもになった結は、家族が大好きです。クラスみんなも、結がとくべつだなんて思っていません。それなのに、転校してきたあかねは、結のことを不幸な生い立ちだと決めつけます。結は、自分の家族を知ってもらおうと、あかねを家にしようたいします。



俳句ステップ！

おおぎやなぎちか／作 イシヤマアズサ／絵 佼成出版社



おとなしい七実^{ななみ}は、公園で出会ったおばあさんと俳句を作るのを楽しみにしています。

ある日、大会で入賞した作品だと先生が発表したのは七実の俳句^{にゅうしょう}でした。しかし、作者は同じクラスの早知恵さんだということです。おどろく七実ですが、自分が作った俳句だと言い出すことができません。

人形つかいマリオのお話

ラフィック・シャミ／作 松永美穂／訳 たなか鮎子／絵 徳間書店



人形つかいのマリオは、国じゅうを旅して、おもしろい人形芝居を見せてまわっています。しかし時がたつうちに、人気者になったマリオは、同じお芝居ばかりくりかえすようになってしまいました。

あきあきした人形たちは、べつのお話をえんじたいと考え始めます。



大坂城のシロ

あんずゆき／著 中川学／絵 くもん出版

豊臣秀吉が天下を取ったころ、まずしい農家のむすめサチは、弱った白い犬と出会います。サチは犬にシロと名付け、なかよくくらすようになりました。

しかし、城に住む虎のえさにしようと、役人たちが犬を集めに来ることになり、シロもつれて行かれてしまいます。



わたしたちのカメムシずかん やっかいものが宝ものになった話

鈴木海花／文 はたこうしろう／絵 福音館書店



岩手県の小学校には、秋になるとたくさんのカメムシが入ってきます。いやなにおいを出すやっかいものの虫です。でも、校長先生は、カメムシにもいろんな種類がいることに気づきました。そして、〈カメムシはかせ〉になろうとていあんしたのです。先生と子どもたちの研究が始まりました。